

授業科目	生命倫理・動物福祉				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	今木 康彦				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授業概要・計画	授業の目的	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。					
	授業計画	<p>1. 生命倫理の概念</p> <p>1) 生命倫理の考え方について理解する</p> <p>2) 生命倫理と獣医療の関わりについて理解する</p> <p>2. 動物福祉の概念</p> <p>1) 動物福祉の考え方について理解する</p> <p>2) 「5つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がされる自由、と恐怖・抑圧からの自由）について理解する</p> <p>3) 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する</p> <p>4) 「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する</p> <p>5) 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する</p> <p>6) 安楽死の考え方について理解する</p> <p>3. 愛玩動物の福祉</p> <p>1) 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する</p> <p>3) 飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する</p> <p>4) 動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策について理解する</p> <p>5) 飼養動物の災害時の対応について理解する</p> <p>4. 産業動物の福祉</p> <p>1) 産業動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 国際的な福祉基準について理解する</p> <p>3) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する</p> <p>5. 実験動物の福祉</p> <p>1) 実験動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 3R（Replacement（代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法について理解する</p> <p>6. 展示動物の福祉</p> <p>1) 展示動物における福祉上の問題について理解する</p> <p>2) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物学）					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物形態機能学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	90	時限数	45	学 年	1年次
担当教員	廣田 典子				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授業概要・計画	授業の目的	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。					
	授業計画	<p>1. 生命のすがた</p> <p>1) 細胞の構造について理解する</p> <p>2) DNAの働きについて理解する</p> <p>3) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する</p> <p>4) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する</p> <p>2. 循環器とその調節</p> <p>1) 心臓の構造について理解する</p> <p>2) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する</p> <p>3) ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する</p> <p>4) 心臓機能の調節機構について理解する</p> <p>5) 血管の種類と構造、機能について理解する</p> <p>6) 血圧調節機構について理解する</p> <p>3. 呼吸器とその調節</p> <p>1) 呼吸器の構造について理解する</p> <p>2) 換気の仕組みについて理解する</p> <p>3) 肺胞におけるガス交換について理解する</p> <p>4) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する</p> <p>5) 呼吸運動の調節機構について理解する</p> <p>4. 消化器と栄養代謝</p> <p>1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する</p> <p>2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する</p> <p>3) 消化と吸収の仕組みについて理解する</p> <p>4) 各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する</p> <p>5. 内分泌とホルモン</p> <p>1) 内分泌の定義について理解する</p> <p>2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する</p> <p>3) 主な内分泌臓器の構造と機能について理解する</p> <p>4) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する</p> <p>6. 泌尿器と体液調節</p> <p>1) 腎臓及びネフロン構造と機能について理解する</p> <p>2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する</p> <p>3) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する</p> <p>4) 体液の分布と区分、調節機構について理解する</p> <p>5) 電解質バランスについて理解する</p> <p>6) 酸・塩基平衡について理解する</p>					

授 業 概 要 ・ 計 画	<p>7. 脳と神経</p> <p>1) ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する</p> <p>2) 脳の構造と機能について理解する</p> <p>3) 脊髄の構造と機能について理解する</p> <p>4) 体性神経の構成と機能について理解する</p> <p>5) 自律神経の構成と機能について理解する</p> <p>8. 運動器</p> <p>1) 骨格の構成について理解する</p> <p>2) 骨の形状と構造について理解する</p> <p>3) 関節の構造と働きについて理解する</p> <p>4) 骨格筋の構造と収縮機構について理解する</p> <p>5) 主な骨格筋の名称と機能について理解する</p> <p>9. 血液と造血器</p> <p>1) 血球成分と血漿成分について理解する</p> <p>2) 赤血球の構造と機能について理解する</p> <p>3) 白血球の構造と機能について理解する</p> <p>4) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する</p> <p>10. 皮膚と感覚器</p> <p>1) 皮膚の構造と機能について理解する</p> <p>2) 皮膚の付属器官について理解する</p> <p>3) 体性感覚（皮膚感覚）について理解する</p> <p>4) 特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する</p>	
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物学）
評価基準	試験・授業態度・提出物	

授業科目	動物繁殖学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	松野 裕子				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する					
	授業計画	<p>1. 生殖器の形態と機能</p> <p>1) 生殖器（雌・雄）の基本構造について理解する</p> <p>2) 主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する</p> <p>3) 雄の繁殖生理について理解する</p> <p>4) 雌の繁殖生理について理解する</p> <p>2. 性周期と交配</p> <p>1) 性成熟と発情徴候について理解する</p> <p>2) 排卵（自然排卵・交尾排卵）の仕組みについて理解する</p> <p>3) 性周期と腔細胞スメアの関係について理解する</p> <p>4) 交配適期の決定法について理解する</p> <p>3. 妊娠と分娩</p> <p>1) 着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する</p> <p>2) 妊娠期間、偽妊娠について理解する</p> <p>3) 分娩と助産、帝王切開について理解する</p> <p>4) 去勢・不妊手術について理解する</p> <p>5) 人工授精について理解する</p> <p>4. 新生子管理</p> <p>1) 新生子のための飼養環境について理解する</p> <p>2) 初乳の意義と哺乳について理解する</p> <p>3) 新生子の発育過程について理解する</p> <p>5. 遺伝学概論</p> <p>1) 遺伝のメカニズムについて理解する</p> <p>2) さまざまな遺伝様式（顕性・潜性、伴性遺伝など）について理解する</p> <p>3) 遺伝子疾患、発生異常について理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物学）					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物行動学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	小田 健郎				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授業概要・計画	授業の目的	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。					
	授業計画	<p>1. 動物行動学の基礎</p> <p>1) 動物行動学の4つの問い(適応・進化・機構・発達)について理解する</p> <p>2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する</p> <p>3) 生得的行動と学習行動について理解する</p> <p>4) 脳による行動制御について理解する</p> <p>2. 個体維持行動</p> <p>1) 摂食及び飲水行動について理解する</p> <p>2) 排泄行動について理解する</p> <p>3) 身づくろい行動について理解する</p> <p>4) 護身行動について理解する</p> <p>3. 発達過程と社会行動</p> <p>1) 発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と各時期の行動学的特徴について理解する</p> <p>2) 生殖行動(性行動・母性行動)について理解する</p> <p>3) コミュニケーション行動について理解する</p> <p>4) 敵対行動と親和的行動について理解する</p> <p>4. 学習理論</p> <p>1) 行動形成について理解する</p> <p>2) 馴化と感作について理解する</p> <p>3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する</p> <p>4) 学習に影響を与える因子について理解する</p> <p>5) 基本的なトレーニング法(トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)について理解する</p> <p>5. 問題行動</p> <p>1) 問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)について理解する</p> <p>2) 攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について理解する</p> <p>3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する</p> <p>4) 不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について理解する</p> <p>5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する</p> <p>6. 行動治療</p> <p>1) 行動診療の進め方について理解する</p> <p>2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する</p> <p>3) 行動治療における薬物療法について理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書(基礎動物学)					
	評価基準	試験・授業態度・提出物					

授業科目	動物栄養学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	青山 友美				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違いを理解する						
	授業計画						
	<p>1. 基礎栄養</p> <p>1) 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する</p> <p>2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する</p> <p>3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する</p> <p>4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する</p> <p>5) 栄養素の不足、過剰症について理解する</p> <p>2. 栄養要求量</p> <p>1) エネルギー要求量（RER、MERなど）の意味と計算法について理解する</p> <p>2) 栄養基準（AAFCO、NRCなど）について理解する</p> <p>3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する</p>						
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物学）					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物看護関連法規				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物学	時間数	15	時限数	7	学 年	1年次
担当教員	今井 真由美				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的		動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
	授業計画		<p>1. 法学総論</p> <p>1) 法の体系について理解する</p> <p>2) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する</p> <p>2. 愛玩動物看護師法</p> <p>1) 愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む。）</p> <p>3. 獣医療関連行政法規</p> <p>1) 獣医師法の概要について理解する</p> <p>2) 獣医療法の概要について理解する</p> <p>4. 公衆衛生行政法規</p> <p>1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する</p> <p>2) 狂犬病予防法の概要について理解する</p> <p>5. 薬事行政法規</p> <p>1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する</p> <p>2) 麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する</p> <p>3) 毒物及び劇物取締法の概要について理解する</p>				
	使用教科書		愛玩動物看護師の教科書（基礎動物学）				
	評価基準		試験・授業態度・提出物				

授業科目	動物看護学概論				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物看護学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	正城 未央				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。					
	授業計画	<p>1. 動物看護の基本となる概念</p> <p>1) 動物看護の目的、概念について理解する</p> <p>2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する</p> <p>3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する</p> <p>4) 動物にとっての健康、福祉、QOLについて理解する</p> <p>5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2. 動物看護の提供体制</p> <p>1) 社会における動物病院の役割について理解する</p> <p>2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する</p> <p>3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する</p> <p>4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する</p> <p>5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する</p> <p>3. 愛玩動物看護師の社会的立場</p> <p>1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する</p> <p>2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する</p> <p>3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する</p> <p>4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物看護学）					
	評価基準	試験・授業態度・提出物					

授業科目	動物病理学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物看護学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	廣田 典子				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。						
	授業計画						
	<p>1. 動物病理学の基礎</p> <p>1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する</p> <p>2) 病理組織標本の作製法について理解する</p> <p>3) 病理組織学的検査の実施手順について理解する</p> <p>2. 細胞や組織に生じる変化</p> <p>1) 変性と物質沈着について理解する</p> <p>2) 壊死とアポトーシスについて理解する</p> <p>3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する</p> <p>4) 過形成と肥大について理解する</p> <p>5) 低形成と萎縮について理解する</p> <p>3. 循環障害</p> <p>1) 充血とうっ血について理解する</p> <p>2) 出血の原因と病態について理解する</p> <p>3) 血栓の成因について理解する</p> <p>4) 虚血と梗塞について理解する</p> <p>5) 浮腫と水腫について理解する</p> <p>6) ショックの原因と分類、病態について理解する</p> <p>7) 播種性血管内凝固 (DIC) の病態について理解する</p> <p>4. 炎症</p> <p>1) 炎症の定義と5大主徴について理解する</p> <p>2) 炎症の分類と原因と特徴について理解する</p> <p>3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する</p> <p>4) 炎症の経過と治癒について理解する</p> <p>5. 腫瘍</p> <p>1) 腫瘍の定義と分類について理解する</p> <p>2) 腫瘍の原因と発生機序について理解する</p> <p>3) 腫瘍と宿主の関係について理解する</p> <p>4) 腫瘍の転移と進行について理解する</p> <p>6. 先天異常</p> <p>1) 遺伝子・染色体異常について理解する</p> <p>2) 発生異常と奇形について理解する</p>						
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書 (基礎動物看護学)					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物感染症学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物看護学	時間数	60	時限数	30	学 年	1年次
担当教員	廣田 典子・小林 文香				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。						
	授業計画						
	<p>1. 微生物の分類と特徴</p> <p>1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2. 微生物検査</p> <p>1) 検体採取と取扱いについて理解する</p> <p>2) 無菌環境下での必要な手技について理解する</p> <p>3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する</p> <p>4) 微生物培養法について理解する</p> <p>5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR検査含む。）について理解する</p> <p>6) 薬剤感受性試験について理解する</p> <p>3. 寄生虫の分類と特徴</p> <p>1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</p> <p>4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する</p> <p>5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する</p>						
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物看護学）					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	公衆衛生学				対象学科	動物看護科	
科目区分	基礎動物看護学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	廣田 典子				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	公衆衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、理解を深める					
	授業計画	<p>1. 公衆衛生の概要</p> <p>1) 公衆衛生の目的について理解する</p> <p>2) 公衆衛生行政について理解する</p> <p>3) 国民衛生の動向について理解する</p> <p>4) One Healthと獣医療の関係について理解する</p> <p>2. 疫学と疾病予防</p> <p>1) 感染の成立について理解する</p> <p>2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する</p> <p>3) 疫学調査法について理解する</p> <p>4) 予防疫学について理解する</p> <p>5) 人獣共通感染症とその対策について理解する</p> <p>6) 狂犬病予防について理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（基礎動物看護学）					
	評価基準	試験・授業態度・提出物					

授業科目	動物内科看護学				対象学科	動物看護科	
科目区分	臨床動物看護学	時間数	60	時限数	30	学 年	1年次
担当教員	立花 徹				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義・実習
授業概要・計画	授業の目的 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。						
	授業計画						
	1. 健康の保持・増進 1) 健康診断の内容と目的について理解する 2. 診療補助に必要な技術 1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 診察室の準備と衛生管理について理解する 3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する 4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する 5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する 3. 検査・処置に必要な技術 1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する 2) 採血の目的と方法について理解する 3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する 4) 穿刺と吸引について理解する 5) 各種カテーテル挿入について理解する 6) 酸素吸入について理解する 7) マイクロチップの挿入について理解する 4. 投薬に関わる技術 1) 薬の処方について理解する 2) 内服薬の使用法について理解する 3) 薬剤の注射法について理解する 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する 5) 投薬前後の注意事項について理解する 5. 輸液に関わる技術 1) 輸液の適応とリスクについて理解する 2) 輸液計画について理解する 3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する 4) 輸液中のモニタリングについて理解する 6. 輸血に関わる技術 1) 輸血の適応とリスクについて理解する 2) 輸血計画について理解する 3) クロスマッチ試験と血液型について理解する						

授業概要・計画	4) 各種輸血製剤の適応や特性について理解する 5) 輸血に関わる手技について理解する 6) 輸血による副反応について理解する 7. 心電図と血圧に関わる技術 1) 心電図検査の目的と意義について理解する 2) 心電図検査の実施方法について理解する 3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する 8. X線検査とCT/MRIに関わる技術 1) X線検査の目的と意義について理解する 2) 放射線防護について理解する 3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する 4) 造影検査と透視検査について理解する 5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する 6) CT及びMRIの概要について理解する	
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（臨床動物看護学）
評価基準	試験・授業態度・提出物	

授業科目	動物臨床看護学総論				対象学科	動物看護科	
科目区分	臨床動物看護学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	正城 未央				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習
授業概要・計画	授業の目的	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。					
	授業計画	<p>1. 動物看護過程の展開</p> <p>1) 動物看護過程の目的や意義、方法について理解する</p> <p>2) 動物看護過程の各ステップについて理解する</p> <p>3) アセスメントについて理解する</p> <p>4) 事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する</p> <p>5) 問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する</p> <p>6) 動物看護過程の実施と評価について理解する</p> <p>2. 診療記録</p> <p>1) 診療録（カルテ）の作成方法について理解する</p> <p>2) 動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する</p> <p>3. 動物看護業務</p> <p>1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2) ケアの標準化（クリティカルパス）について理解する</p> <p>3) 事故管理、防止システムについて理解する</p> <p>4) 若齢動物看護の特徴について理解する</p> <p>5) 老齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する</p> <p>6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する</p> <p>4. ターミナルケアに関わる技術</p> <p>1) ターミナルケアの目的と意義について理解する</p> <p>2) QOLやホスピス、緩和ケアについて理解する</p> <p>3) グリーフケアについて理解する</p> <p>4) 死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（臨床動物看護学）					
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物臨床検査学				対象学科	動物看護科	
科目区分	臨床動物看護学	時間数	15	時限数	7	学 年	1年次
担当教員	林 茂				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。					
	授業計画	<p>1. 臨床検査の基礎</p> <p>1) 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する</p> <p>2) 基準値、感度、特異度、精度管理について理解する</p> <p>3) 検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する</p> <p>2. 血液検査</p> <p>1) 血漿、血清の分離法について理解する</p> <p>2) 全血球計算法（CBC）について理解する</p> <p>3) 血液塗抹の作製及び観察法について理解する</p> <p>4) ヘマトクリット管を用いた検査について理解する</p> <p>5) 凝固検査の目的と意義について理解する</p> <p>6) 血液化学検査の目的と意義について理解する</p> <p>7) 血液ガス検査の目的と意義について理解する</p> <p>8) 免疫学的検査の目的と意義について理解する</p> <p>3. 尿検査</p> <p>1) 尿の性状検査について理解する</p> <p>2) 尿沈渣について理解する</p>					
	使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（臨床動物看護学）					
	評価基準	試験・授業態度・提出物					

授業科目	動物医療コミュニケーション				対象学科	動物看護科	
科目区分	臨床動物看護学	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	片桐 麻里奈・正城 未央・小林 文香				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習
担当教員	鎌田 絵里				実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	演習
授業概要・計画	授業の目的						
	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。						
	授業計画						
	<p>1. クライアントエデュケーション</p> <p>1) 適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる</p> <p>2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する</p> <p>3) 病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など）について理解する</p> <p>4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する</p> <p>2. 院内コミュニケーション</p> <p>1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する</p> <p>2) 獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など）について理解する</p> <p>3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能（報告・連絡・相談）について理解する</p> <p>3. 院内業務</p> <p>1) 受付業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など）について理解する</p> <p>2) 物品購入や管理について理解する</p> <p>3) ペット保険について理解する</p>						
使用教科書	愛玩動物看護師の教科書（臨床動物看護学）						
評価基準	試験・授業態度・提出物						

授業科目	動物内科看護学実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	60	時限数	30	学 年	1年次
担当教員	立花 徹・片桐 麻里奈				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。					
	授業計画	<p>1. 身体検査</p> <p>1) 全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。）を評価できる</p> <p>2) バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧）</p> <p>2. 診察補助</p> <p>1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる</p> <p>2) 基本的な保定を実施することができる</p> <p>3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる</p> <p>4) 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む。）の手順を習得している</p> <p>5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している</p>					
	使用教科書	動物看護実習テキスト					
	評価基準	試験・授業態度					

授業科目	動物臨床検査学実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	片桐 麻里奈・正城 未央				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。					
	授業計画	1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 3) 血漿、血清を分離できる 4) 血液塗抹標本作製、染色できる 5) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる					
	使用教科書	動物看護実習テキスト					
	評価基準	試験・授業態度					

授業科目	動物外科看護学実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	15	時限数	7	学 年	1年次
担当教員	片桐 麻里奈・小林 文香				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。						
	授業計画						
	1. 術前準備 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる						
	使用教科書	動物看護実習テキスト					
評価基準	試験・授業態度						

授業科目	動物愛護・適正飼養実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	30	時限数	15	学 年	1年次
担当教員	濱本 綾香				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
担当教員	鎌田 絵里				実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いを理解する						
	授業計画						
	1. 動物の基本的な取扱い 1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる 3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる 4) 基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）を実施できる 5) 動物の飼養環境を適切に整備できる						
	使用教科書	最新ドッググルーミングマニュアル					
評価基準	試験・授業態度						

授業科目	動物看護総合実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	60	時限数	30	学 年	1年次
担当教員	片桐 麻里奈・小林 文香				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的	診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーションを学び、 愛玩動物看護師としての役割や責任について理解する					
	授業計画	1. 動物看護業務の理解 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する					
	使用教科書	動物看護実習テキスト					
	評価基準	試験・授業態度					

授業科目	美容学概論				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	15	時限数	7	学 年	1年次
担当教員	鎌田 絵里				実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
担当教員	石田 亜椰				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	<p>犬のグルーミングについて詳しく知るために、犬という動物の体について基礎を学習し理解する 被毛の構造やシャンプー・リンスの特性などを理解し、使いこなすための知識を習得する 各種道具の使い方やお手入れ方法、毛質により違う道具の使い分け方を理解する</p>						
	授業計画						
	<p>1. 動物の基本的な取扱い</p> <p>1) よい犬の定義ならびに犬の分類と馴化の歴史について学習する</p> <p>2) 道具の名称や使い方を学習する</p> <p>3) 実習に入る前にトリミングの重要性を学ぶことで心の準備をする</p> <p>4) 実技をする上で注意や作業手順を学ぶ</p> <p>5) ハサミの歴史や各部名称、素材、仕組みと性質について学ぶ。また、種類や選び方、保管方法についても理解する</p> <p>6) 被毛の構造や性質、シャンプー・リンスの特性について学習する</p> <p>7) トリマー資格試験時の、受験者マナーや試験中の注意、心構えについて</p> <p>8) トリミング時のオーダーの見方、使用する道具について</p>						
使用教科書		最新ドッググルーミングマニュアル					
評価基準		試験・授業態度					

授業科目	動物看護飼育美容実習				対象学科	動物看護科	
科目区分	実習	時間数	300	時限数	150	学 年	1年次
担当教員	鎌田 絵里				実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
担当教員	石田 亜椰				実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習
授 業 概 要 ・ 計 画	授業の目的						
	バイタルサインを実施し、動物のからだを深く知る						
	実習を通して保定の技術を習得する						
	トリミングをする上で重要となる犬の保定・犬の扱い方・道具の使い方などの基礎を習得する						
犬種によりカット方法が異なり、各犬種のハサミの使い方や形を理解する							
授業計画							
1. グルーミング実習 1) 保定・道具・シャンプー・ブローなどの基礎を学ぶ 2) 保定のバリエーション・クリッパーの入れ方・足回りやフットラインの切り方を学ぶ 3) 保定のバリエーション・ボディ・クラウンのカット方法を学ぶ 4) どのような犬種の保定も出来るように学ぶ。また顔のカットの仕方を学ぶ 5) どのような犬種の保定も出来るように学ぶ。また全身のカットの仕方を学ぶ							
使用教科書		最新ドッググルーミングマニュアル					
評価基準	試験・授業態度						

科目	動物形態機能学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15
担当教員	廣田典子			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義	
学習目標	解剖学及び生理学の基礎を復習し生命体としての動物を理解。動物体の構造と機能について復習する。特にイヌやネコの解剖学及び生理学を理解することを旨とする。その他の動物についてもイヌやネコと比較しながら学ぶ。						
使用教材	犬と猫の体の仕組み						
評価基準	試験・授業態度・提出物						
	テーマ	内容					
1	体を構成する要素	動物細胞の階層（器官、組織、細胞について復習する。					
2	運動器系（骨格、筋肉）	関節の構造、種類、名称を復習。 骨格（軸骨格、付属肢骨格、内臓骨格）を復習。					
3	運動器系（骨格、筋肉）	動物種による歩行様式の違いを復習する。筋肉の種類とつくりを知る。筋肉の収縮のメカニズムを復習する。					
4	消化器系	歯の構造を知る（動物種による違いを学ぶ）。嚥下の仕組みについて学ぶ。					
5	消化器系	消化に関わる器官の機能（栄養素を体に取り込む仕組み、動物種による違い）、肝臓の機能					
6	循環器系	心臓の興奮と伝達。心臓の収縮。心電図について復習する。循環器系の構成を復習する。（体循環、肺循環、門脈、循環）。血管の構造を復習する（動脈、静脈、毛細血管）					
7	血液	血液の組成（細胞成分）、血液凝固					
8	免疫	移行抗体の胎盤移行性について。 リンパ性付属器官					
9	呼吸器系	呼吸器の機能、組織でのガス交換、酸素解離曲線					
10	泌尿器系	泌尿器系の機能 体液調整と尿生成について。腎臓から分泌される生理活性物質について復習。					
11	生殖器系	春期発動 性周期（イヌ、ネコ、産業動物）、妊娠期間（イヌ、ネコ、産業動物）を復習					
12	神経系	神経系の分類と構造（中枢神経、末梢神経） 神経伝達の仕組みについて（神経伝達物質）					
13	内分泌系	内分泌と外分泌の違い 全身の内分泌腺について理解する					
14	内分泌系	ホルモンの生理作用、ホルモンの分泌調節					
15	感覚器系	様々な感覚（感覚の分類、感覚と受容器、動物による感じ方の違い）、特殊感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚）					

科目	動物繁殖学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	6	授業回数	3	
担当教員	林 茂			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	雌雄の生殖器の構造を理解したうえで、犬と猫の雌の発情・妊娠・分娩などの繁殖についての過程を学び、生殖器疾患と新生子疾患の疾患名について学習する。また、看護のポイントについてもしっかりと理解することを目的とする。							
使用教材	小動物繁殖学・動物看護の実践・超音波診断法（ビデオ）							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	妊娠学①		動物の妊娠・出産について理解する。膣スメアを観察しての犬の発情診断、精液を実際に採取し顕微鏡でその形態を観察、実際の交尾、出産をオリジナル動画によって学習する					
2	妊娠学②		動物の妊娠・出産について理解する。膣スメアを観察しての犬の発情診断、精液を実際に採取し顕微鏡でその形態を観察、実際の交尾、出産をオリジナル動画によって学習する					
3	生殖機能のホルモン支配		早期妊娠診断ツールである超音波画像診断装置の基礎を理解する。フルーツゼリーを用いてエコー画像の基礎を理解した後に実際に動物にエコーを当て、どのような画像を得られるか理解する。					

科目	動物薬理学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	60	授業回数	30
担当教員	廣田典子	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	講義		
担当教員	小林文香	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	講義		
学習目標	1.薬理学とは何か、薬物治療の目的は何か学習する 2.薬理作用とその発現機構、作用の強さ、有害作用について学習する 3.薬物の剤形と投与方法について、その特徴を理解する 4.各種の薬物について、作用機序や種類を学習する 5.臨床現場で使用されることの多い薬物について理解する						
使用教材	動物看護コアテキスト3（動物薬理学）ファームプレス						
評価基準	試験・授業態度・提出物						
	テーマ	内容					
1	薬理学総論	1.薬理学とは何か学習し、現場で活用できる知識を身につけることを意識づける 2.薬物の取り扱いについて学習する 3.医薬品の分類と法規について学習し理解する					
2	薬理学総論	1.薬理学とは何か学習し、現場で活用できる知識を身につけることを意識づける 2.薬物の取り扱いについて学習する 3.医薬品の分類と法規について学習し理解する					
3	薬理学の基礎	1.薬理作用とその発現機構について学習し、理解する 2.薬物の作用点と受容体について学習し、理解する					
4	薬理学の基礎	1.薬理作用とその発現機構について学習し、理解する 2.薬物の作用点と受容体について学習し、理解する					
5	薬理学の基礎	1生体内での薬物の動態について学習し、理解する 2.薬用量の計算を学習し、正確に応用できるよう習得する 3薬物の代謝について学習し、理解する					
6	薬理学の基礎	1生体内での薬物の動態について学習し、理解する 2.薬用量の計算を学習し、正確に応用できるよう習得する 3薬物の代謝について学習し、理解する					
7	薬理学各論 麻酔薬、注射麻酔薬	1.神経系に作用する薬について学習する(1)①注射麻酔薬の種類について学習する②吸入麻酔薬の作用について学習し、理解する③吸入麻酔の種類について学習し、理解する					
8	薬理学各論 吸入麻酔薬、局所麻酔薬	1.神経系に作用する薬について学習する(2)①吸入麻酔の種類について学習し、理解する②局所麻酔薬の作用について学習する③局所麻酔薬の種類について学習し、理解する					
9	薬理学各論 鎮静薬、抗けいれん薬	1.神経系に作用する薬について学習する(3)①鎮静薬、抗けいれん薬の作用について学習し、理解する②鎮静薬、抗けいれんの種類について学習する					
10	薬理学各論 呼吸器系に作用する薬	1.呼吸器に作用する薬について学習する①呼吸興奮薬について学習する②鎮咳薬、去痰薬、気管拡張薬について学習し、理解する					
11	薬理学各論 呼吸器系に作用する薬	1.呼吸器に作用する薬について学習する①呼吸興奮薬について学習する②鎮咳薬、去痰薬、気管拡張薬について学習し、理解する					
12	薬理学各論 循環器に作用する薬物	1.循環器に作用する薬について学習する①血管拡張作用のしくみについて学習し、理解する②血管拡張薬の種類について学習する③心不全治療薬、抗不整脈薬について学習し、理解する					
13	薬理学各論 循環器に作用する薬物	1.循環器に作用する薬について学習する①血管拡張作用のしくみについて学習し、理解する②血管拡張薬の種類について学習する③心不全治療薬、抗不整脈薬について学習し、理解する					
14	薬理学各論 ミニテスト	1.ここまでの授業について復習、疑問点を確認する 2.小テスト					
15	薬理学各論 泌尿器系に作用する薬物	1.泌尿器に作用する薬について学習する①腎機能について復習する②利尿薬について学習し、理解する③利尿薬以外の泌尿器に作用する薬物の種類と作用機序について学習し、理解する					

16	薬理学各論 泌尿器系に作用する薬物	1. 泌尿器に作用する薬について学習する①腎機能について復習する②利尿薬について学習し、理解する③利尿薬以外の泌尿器に作用する薬物の種類と作用機序について学習し、理解する
17	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化器に作用する薬について学習する①嘔吐の機序と制吐薬について学習し、理解する②胃酸分泌について学習する③潰瘍治療薬の作用機序と種類を学習し、理解する 2. その他消化器に作用する薬について学習する①止瀉薬について学習し、理解する②下剤について学習する
18	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化器に作用する薬について学習する①嘔吐の機序と制吐薬について学習し、理解する②胃酸分泌について学習する③潰瘍治療薬の作用機序と種類を学習し、理解する 2. その他消化器に作用する薬について学習する①止瀉薬について学習し、理解する②下剤について学習する
19	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化管運動について学習する 2. 消化管に作用する薬、止瀉・瀉下薬について学習し、理解する 3. 肝疾患の薬について学習し、理解する 4. 胆汁について復習する 5. 胆道疾患の治療薬について学習し、理解する
20	薬理学各論 消化器系に作用する薬物	1. 消化管運動について学習する 2. 消化管に作用する薬、止瀉・瀉下薬について学習し、理解する 3. 肝疾患の薬について学習し、理解する 4. 胆汁について復習する 5. 胆道疾患の治療薬について学習し、理解する
21	薬理学各論 オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	1. オータコイドについて学習する①オータコイドとは何か理解する②ヒスタミンの生理作用と抗ヒスタミン薬について学習する③セロトニンの生理作用とセロトニン作動薬、拮抗薬について学習する④ブラジキニンについて学習する 2. 糖尿病の治療薬について学習する①インスリンの分泌調節と生理作用について復習する②糖尿病について学習する③糖尿病治療薬について学習する
22	薬理学各論 オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	1. オータコイドについて学習する①オータコイドとは何か理解する②ヒスタミンの生理作用と抗ヒスタミン薬について学習する③セロトニンの生理作用とセロトニン作動薬、拮抗薬について学習する④ブラジキニンについて学習する 2. 糖尿病の治療薬について学習する①インスリンの分泌調節と生理作用について復習する②糖尿病について学習する③糖尿病治療薬について学習する
23	薬理学各論 代謝・内分泌系の薬物	1. 甲状腺障害の治療薬について学習する①甲状腺の機能について復習する②甲状腺障害について犬、猫の違いを学習し、その治療薬について学習する 2. ステロイドホルモンと抗炎症薬について学習する①ステロイドホルモンの分泌調節、生理作用について復習する②抗炎症薬としての作用を学習する
24	薬理学各論 代謝・内分泌系の薬物	1. 甲状腺障害の治療薬について学習する①甲状腺の機能について復習する②甲状腺障害について犬、猫の違いを学習し、その治療薬について学習する 2. ステロイドホルモンと抗炎症薬について学習する①ステロイドホルモンの分泌調節、生理作用について復習する②抗炎症薬としての作用を学習する
25	薬理学各論 抗炎症薬	1. 抗炎症薬について学習する①炎症について理解する②抗炎症薬の作用機序と種類について学習する③臨床現場で利用されている薬剤について学習する
26	薬理学各論 抗炎症薬	1. 抗炎症薬について学習する①炎症について理解する②抗炎症薬の作用機序と種類について学習する③臨床現場で利用されている薬剤について学習する
27	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
28	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
29	薬理学各論 血液に作用する薬物	1. 抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について学習する 2. 免疫抑制薬について学習する化学療法薬について学習する①消毒薬、殺虫薬、抗菌薬について、作用機序や効果、臨床での利用などを学習し、理解する
30	薬理学各論 ミニテスト	1. ここまでの授業について復習、疑問点を確認する 2. 小テスト

科目	動物感染症学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	廣田典子	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	講義			
担当教員	小林文香	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	講義			
学習目標	寄生虫学総論では、寄生虫学の基礎を理解する。寄生虫学各論では、小動物に関係する寄生虫を中心に学習する。産業動物の寄生虫は、地域性なども配慮し国内に発生する寄生虫について学習する。人獣共通寄生虫症について学習し、動物看護師として深く理解する。							
使用教材	動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野 動物寄生虫学 インターズー							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	内部寄生虫学		1.中間宿主と終宿主を覚える。 2.壺型吸虫について学習する。					
2	内部寄生虫学		1.条虫類総論 ①条虫類について特徴を学習する。					
3	内部寄生虫学		1.条虫類総論 ①条虫類の種類、生活環について学習する。					
4	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①マンソン裂頭条虫 ②瓜実条虫					
5	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①マンソン裂頭条虫 ②瓜実条虫					
6	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①多包条虫 ②猫条虫					
7	内部寄生虫学		1.条虫類について生活環、症状、治療、予防法などを学習する。 ①多包条虫 ②猫条虫 2.ヒトの条虫について学ぶ					
8	内部寄生虫学		1.吸虫類、条虫類のまとめ 小テスト					
9	外部寄生虫学		1.外部寄生虫総論 2.外部寄生虫各論①マダニ					
10	外部寄生虫学		1.外部寄生虫総論 2.外部寄生虫各論①マダニ					
11	外部寄生虫学		1.外部寄生虫各論①中気門類②ツメダニ③ヒゼンダニ類 ④シラミ、ハジラミ類⑤ノミ類					
12	外部寄生虫学		1.外部寄生虫各論①中気門類②ツメダニ③ヒゼンダニ類 ④シラミ、ハジラミ類⑤ノミ類					
13	寄生虫学 検査法		1.寄生虫学検査法について					
14	寄生虫学 検査法		1.寄生虫学検査法について					
15	寄生虫学 まとめ		小テスト					

科目	公衆衛生学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	廣田典子			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	1.公衆衛生とは何か学ぶ 2.滅菌法、消毒法についてを学び、感染予防について理解する 3.犬、猫が関係する人獣共通感染症について学ぶ 4.免疫機構を理解し、犬、猫の感染症のワクチンについて学ぶ 5.動物の衛生に関する法律を学び、感染症の防疫について理解する							
使用教材	動物看護コアカリキュラム3 動物の疾病と予防および回復 ファームプレス							
評価基準	試験・授業態度							
	テ	ー	マ	内				容
1	主な細菌			1.主な細菌感染症について学ぶ①サルモネラ感染症②緑膿菌感染症③バクテリウム症④レプトスピラ症⑤ブルセラ症⑥歯周病⑦ボルデテラ症⑧ライム				
2	主な細菌			1.主な細菌感染症について学ぶ①サルモネラ感染症②緑膿菌感染症③バクテリウム症④レプトスピラ症⑤ブルセラ症⑥歯周病⑦ボルデテラ症⑧ライム病⑨カンピロバクター症⑩破傷風⑪結核				
3	特殊細菌			1.特殊細菌による感染症①マイコプラズマ感染②猫のクラミジア症③鳥クラミジア症④犬のリケッチア感染症 2.特殊細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
4	特殊細菌			1.特殊細菌による感染症①マイコプラズマ感染②猫のクラミジア症③鳥クラミジア症④犬のリケッチア感染症 2.特殊細菌による人獣共通感染症について学ぶ				
5	真菌感染			1.犬・猫の主な真菌感染症①皮膚糸状菌症②マラセチア症③クリプトコッカス症 2.真菌による人獣共通感染症について学ぶ				
6	真菌感染			1.犬・猫の主な真菌感染症①皮膚糸状菌症②マラセチア症③クリプトコッカス症 2.真菌による人獣共通感染症について学ぶ				
7	細菌、真菌まとめ			1.細菌、特殊細菌、真菌感染症のまとめ				
8	細菌、真菌まとめ			1.細菌、特殊細菌、真菌感染症のまとめ 2.小テスト				
9	ウイルス感染			1.主なウイルス感染症について学ぶ				
10	ウイルス感染			1.主なウイルス感染症について学ぶ				
11	ウイルス感染			1.ウイルスによる人獣共通感染症について学ぶ				
12	ウイルス感染			1.ウイルスによる人獣共通感染症について学ぶ				
13	人獣共通感染症			1.人獣共通感染症について復習する				
14	人獣共通感染症			1.人獣共通感染症について復習する				
15	公衆衛生学			1.公衆衛生学 小テスト				

科目	動物人間関係学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理的および社会位学的側面から理解する。							
使用教材	愛玩動物飼養管理士教本							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	人間と動物の関わり		現在の日本愛玩動物協会に至る流れがどのような仕組みで協会が成り立っているのかを知り、動物愛護に対して考えてみる。また、飼養管理士資格の					
2	動物愛護論（歴史）①		日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを学習する					
3	動物愛護論（歴史）②		日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを学習する					
4	人と動物の関係学 動物関係法令		多種多様な動物種と人間が共生していく上でのメリット、デメリットを認識したうえで動物に関わる関係法令の制定に至る過程を学習する。また、子供の教育における動物飼養の効果についても学習する					
5	動物の愛護及び管理に関する法律の関係法令 体系と法律の制定及び改正の経緯		人と動物の関係の変化に対応してきた法律の制定から改正に至る経緯を学習し、分野ごとに定められる基準や細目ごとにそれぞれの対象動物の仕分け、内容の学習					
6	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響を理解する。					
7	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在活動の目的と内容について理解する。					
8	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在療法の目的と内容について理解する。					
9	動物の介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在教育の目的と内容について理解する。					
10	使役動物		使役動物の歴史と福祉について理解する。					
11	使役動物		補助犬の定義、歴史を理解する。					
12	使役動物		補助犬の育成過程や適正について理解する。					
13	伴侶動物の飼育		伴侶動物飼育の現状を理解する。					
14	伴侶動物の飼育		伴侶動物飼育によって人間が受けた恩恵と問題点を理解する。					
15	伴侶動物の飼育		伴侶動物の適正飼育を推進するために必要な手段を理解する。					

科目	動物福祉・倫理	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。							
使用教材	配布資料							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	ー	マ	内				容
1	生命倫理の概念			生命倫理の考え方について理解する。				
2	生命倫理の概念			生命倫理と獣医療の関わりについて理解する。				
3	動物福祉の概念			動物福祉の考え方を理解する。				
4	動物福祉の概念			「5つの自由」を理解する。 近代および現代の動物愛護運動について理解する。				
5	動物福祉の概念			動物の権利、動物福祉思想について理解する。 動物福祉に関する法と行政の仕組みの概要を理解する。 安楽死の考え方について理解する。				
6	伴侶動物の福祉			伴侶動物の適正飼育と福祉上の問題について理解する。 動物保護活動の現状と課題を理解する。				
7	伴侶動物の福祉			飼育法規や殺処分問題、対策について理解する。				
8	伴侶動物の福祉			動物虐待の定義と現状、対策について理解する。				
9	伴侶動物の福祉			飼育動物の災害時の対応について理解する。				
10	産業動物の福祉			産業動物における福祉の問題について理解する。				
11	産業動物の福祉			産業動物の福祉を向上させるための具体方法を理解する。				
12	実験動物の福祉			実験動物における福祉の問題について理解する。				
13	実験動物の福祉			3Rの概念と具体的方法を理解する。				
14	展示動物の福祉			展示動物における福祉の問題について理解する。				
15	展示動物の福祉			展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容を理解する。				

科目	動物行動学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	10	授業回数	5	
担当教員	小 田 健 郎			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習		
学習目標	イヌやネコの発生起源、種類による特徴を理解し基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し動物の看護と飼い主指導に活かす。							
使用教材	配布資料							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	ー	マ	内				容
1	動物行動学の基礎①			動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ				
2	動物行動学の基礎②			動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ				
3	犬の進化と家畜化①			犬と人とはいつ頃から付き合いがあるのか。また、家畜化によってどのように変化したのか。 家畜化していく上で作出された犬種について学ぶ				
4	猫の進化と家畜化①			リビアヤマネコがどのようにしてイエネコになったのか。家畜化していく理由などについて学ぶ				
5	猫のコミュニケーション行動①			猫のコミュニケーション行動を理解する。				

科目	産業動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	48	授業回数	24	
担当教員	廣田和久(12)			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
担当教員	濱本大気(12)鎌田絵里(12)若山明子(12)			実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	産業動物の基礎知識と畜産としての酪農を学ぶ。産業動物の歴史や品種を理解する。畜産産業と社会の関わりについて学ぶ。産業動物として、飼育されている主な家畜の使用方法について学習し「5つの自由」を遵守した飼育方法理解する。							
使用教材	動物の行動と健康管理							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ		マ		内			容
1	豚の飼育環境		豚の飼育環境と食事管理について理解する					
2	豚の飼育環境		豚の飼育環境と食事管理について理解する					
3	ニワトリの飼育環境		ニワトリの飼育環境と食事管理について理解する					
4	ニワトリの飼育環境		ニワトリの飼育環境と食事管理について理解する					
5	馬の飼育環境		馬の飼育環境と食事管理について理解する					
6	馬の飼育環境		馬の飼育環境と食事管理について理解する					
7	馬の飼育環境		馬の飼育環境と食事管理について理解する					
8	羊の飼育環境		羊の飼育環境と食事管理について理解する					
9	羊の飼育環境		羊の飼育環境と食事管理について理解する					
10	ヤギの飼育環境		ヤギの飼育環境と食事管理について理解する					
11	ヤギの飼育環境		ヤギの飼育環境と食事管理について理解する					
12	産業動物の人獣共通感染症		産業動物の人獣感染症について理解する					
13	産業動物の人獣共通感染症		産業動物の人獣感染症について理解する					
14	産業動物の人獣共通感染症		産業動物の人獣感染症について理解する					
15	産業動物の人獣共通感染症		産業動物の人獣感染症について理解する					

16	産業動物の繁殖について	牛の繁殖について
17	産業動物の繁殖について	豚の繁殖について
18	産業動物の繁殖について	ニワトリの繁殖について
19	産業動物の繁殖について	馬の繁殖について
20	産業動物の繁殖について	羊の繁殖について
21	産業動物の繁殖について	ヤギの繁殖について
22	酪農産業とは①	酪畜産業の基礎、畜産業界を取り巻く情勢
23	酪農産業とは②	酪畜産業の基礎、畜産業界を取り巻く情勢
24	酪農産業とは③	飼養衛生管理基準について

科目	実験動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	14	授業回数	7	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。							
使用教材	動物の行動と健康管理							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	ー	マ	内				容
1	代表的な実験動物の飼育方法			マウス、ラット、モルモット、ハムスター				
2	代表的な実験動物の飼育方法			マウス、ラット、モルモット、ハムスター				
3	遺伝的コントロール			再現性を高める為高い遺伝子構成の同一性が求められていることを学ぶ。				
4	遺伝的コントロール			再現性を高める為高い遺伝子構成の同一性が求められていることを学ぶ。				
5	衛生的・環境コントロール			微生物コントロールにより清浄度の高い順に無菌動物、ノトバイオ、SPF動物などの分類を理解する。 環境要因も大きく影響を与えることを学ぶ。				
6	衛生的・環境コントロール			微生物コントロールにより清浄度の高い順に無菌動物、ノトバイオ、SPF動物などの分類を理解する。 環境要因も大きく影響を与えることを学ぶ。				
7	実験動物の福祉			「3つのR」成り立ちと定義を学ぶ。				

科目	野生動物学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	講義		
学習目標	<p>さまざまな動物の特徴と人との関わりを理解する。</p> <p>日本の野生動物の種類と保全、北海道に生息する野生動物の種類と保全について学ぶ。</p> <p>動物園等の展示動物について学ぶ。</p>							
使用教材	動物の行動と健康管理							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	ー	マ	内				容
1	野生動物の保全			野生動物の保全、日本の野生動物の環境				
2	野生動物の保全			野生動物の保全、野生動物と人身被害・住民被害				
3	野生動物の食性①			草原性動物、森林性動物、荒原性動物				
4	野生動物の食性②			草原性動物、森林性動物、荒原性動物				
5	外来動物①			外来生物/外来種/侵入生物/侵入種/移入生物/移入種について学ぶ。				
6	外来動物②			外来生物/外来種/侵入生物/侵入種/移入生物/移入種について学ぶ。				
7	鳥獣害①			野生鳥獣による被害概要。被害の現状と対策				
8	鳥獣害②			野生鳥獣による被害概要。被害の現状と対策				
9	北海道の野生動物			北海道の野生動物を理解する				
10	北海道の野生動物			北海道の生物多様性保全を理解する				
11	北海道の野生動物			北海道の野生動物の被害概要、被害の現状と対策				
12	絶滅危惧種とレッドリスト			絶滅危惧種、レッドリストについて理解する。				
13	展示動物の定義			基本的な考え、種類の選択、繁殖、終生飼育				
14	動物園の役割①			種の保全、教育・環境教育、調査・研究・リクリエーション				
15	動物園の役割②			種の保全、教育・環境教育、調査・研究・リクリエーション				

科目	動物外科看護学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	立花 徹(10) 林 茂(8)			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
担当教員	松田 晃子(10) 片桐麻里奈(2)			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
使用教材	配布資料							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ		マ		内			容
1	外科診療時の補助に必要な技術の確認①		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。					
2	無菌操作の重要性の確認①		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。					
3	手術前の動物に必要な情報、アセスメント、飼い主に必要な指示を知る①		犬、猫の避妊手術時に必要な情報を飼い主から聞きとる方法や伝えるを身に付ける。					
4	手術室の環境管理①		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。					
5	滅菌と消毒の実践①		手術時に必要な滅菌、消毒の概念を理解する。滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を学ぶ。					
6	手術施設、設備の準備と管理①		機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を学ぶ。衛生的な管理と清掃、機器の管理と消耗品管理、ストックの重要性を学ぶ。					
7	術者に必要な準備①		手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順を学ぶ。グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を学ぶ。					
8	手術チームの準備①		無菌、滅菌、消毒の知識学ぶ。					
9	手術器具の準備と基礎知識①		器具の名称と役割を学ぶ。適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品管理を学ぶ。					
10	消耗品管理の重要性①		在庫管理の重要性、使用後使用前チェック、チェック表の活用方法を学ぶ。					
11	術前、術中の動物管理と看護①		手術前の検査の有無を学び個体に合わせた検査方法を決定していく。術前の食止め、飲水、排尿量管理について学ぶ。術前の鎮痛処置について基礎知識を知り、痛みの管理について学ぶ。					
12	術中の補助①		動物看護師の関わる業務として外回り（間接的な補助者）五感をつかったモニタリング、バイタルチェックを学ぶ。直接的な補助者としての役割を学ぶ。					
13	術中麻酔に関する基礎①		麻酔のモニタリングと機器の知識を学ぶ。麻酔導入から覚醒までの補助に必要な知識と麻酔記録を学ぶ。					
14	術後の管理・衛生管理①		安全確保、動物の観察と看護、痛みの観察と管理、痛みの知識を学ぶ。包帯法の基礎知識、術創の保護に必要な知識、創傷管理のための器材（ネット・カラーなど）を学ぶ。					
15	救命救急処置①		生命徴候のアセスメント、救命方法の知識、気管内挿管の知識を学ぶ。					

科目	動物臨床看護学各論	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	60	授業回数	30	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習		
学習目標	循環器系、呼吸器系、消化器系を主とした疾患に対して、動物看護過程をふまえた動物看護介入について理解することを目的とする。授業の流れは、循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患とともにこれらと関連する脳神経系疾患、筋骨格系疾患、リハビリテーション、泌尿器系疾患、生殖器系疾患、内分泌系疾患、皮膚疾患、感染症および症状を合わせて、総合的に多角的に説明していくこととする。							
使用教材	ファームプレス 第6巻							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	動物看護とは何か		1.動物看護とは何か 2.動物看護の活動の4要素 3.動物看護に対する考え方の広がり					
2	健康とは何か		1.健康の成立要因 2.総合保険獣医療					
3	一般身体検査とは何か①		1.一般身体検査 2.診察の流れ 3.問診 4.体重測定					
4	一般身体検査とは何か②		5.バイタルサイン (1)呼吸数 (2)脈拍数 (3)体温					
5	動物看護過程とは何か		1.動物看護過程とは 2.動物看護過程の流れ					
6	動物看護過程の流れ①		2.動物看護過程の流れ (1) アセスメント (2) 看護診断					
7	動物看護過程の流れ②		2.動物看護過程の流れ (3) 看護計画 (4) 看護実践 (5) 看護評価					
8	飼い主の理解①		3.傾聴 (1) 傾聴の基本動作 (2) 情報聴取および伝え方					
9	飼い主の理解②		3.傾聴 (3) 要約聴取 (4) 非言語コミュニケーション					
10	飼い主の理解③		4.価値観および自己覚知					
11	循環器系・泌尿器系の構造と機能①		1.循環器系・泌尿器系の構造と機能 (1) 構造					
12	循環器系・泌尿器系の構造と機能②		1.循環器系・泌尿器系の構造と機能 (2) 機能					
13	循環器系疾患の観察ポイント①		2.観察ポイント (1) 心筋に関する異常 (2) 刺激伝導系に関する異常					
14	循環器系疾患の観察ポイント②		2.観察ポイント (3) ポンプ機能の低下による障害 ①左心室 ②右心室 3.検査					
15	循環器系・泌尿器系疾患に対する看護介入①		4.看護介入 (1) 問診のポイント (2) 一般状態 (3) 検査時における看護介入					
16	循環器系・泌尿器系疾患に対する看護介入②		4.看護介入 (4) 治療時にける看護介入 (5) 主な疾患に対する看護介入					

17	呼吸器系の構造と機能	1.呼吸器系の構造と機能 (1) 呼吸器の構造 (2) 呼吸の機能
18	呼吸器系疾患の観察ポイント①	2.観察ポイント (1) 気道の状態 (2) 換気量
19	呼吸器系疾患の観察ポイント②	2.観察ポイント (3) 酸素化能力 3.検査
20	呼吸器系疾患に対する看護介入①	4.看護介入 (1) 問診のポイント (2) 一般状態 (3) 検査時における看護介入
21	呼吸器系疾患に対する看護介入②	4.看護介入 (4) 治療時にける看護介入 (5) 主な疾患に対する看護介入
22	消化器系・内分泌系の構造と機能	1.消化器系・内分泌系の構造と機能 (1) 構造 (2) 機能
23	消化器系疾患の観察ポイント①	2.観察ポイント (1) 口腔内 (2) 嚥下 (3) 食道 (4) 甲状腺 (5) 上皮小体
24	消化器系疾患の観察ポイント②	2.観察ポイント (6) 胃 (7) 腸 (8) 膵臓
25	消化器系疾患の観察ポイント③	2.観察ポイント (9) 肝臓 (10) 副腎 3.検査
26	消化器系疾患に対する看護介入①	4.看護介入 (1) 問診のポイント (2) 一般状態 (3) 検査時における看護介入
27	消化器系疾患に対する看護介入②	4.看護介入 (4) 治療時にける看護介入 (5) 主な疾患に対する看護介入
28	デンタルケア	1.歯の構造と機能 2.歯垢と歯石 3.検査と治療 4.デンタルケア
29	運動器系疾患に対する看護介入①	1.骨、筋肉、神経の構造と機能
30	運動器系疾患に対する看護介入②	2.リハビリテーション

科目	動物臨床栄養学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	青山友美			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習		
学習目標	<p>栄養学総論では、小動物の栄養に関する基礎を理解し、動物看護師としてライフステージ別の栄養指導やカロリー計算などを活用して飼い主にアドバイスができることを目的とする。栄養学各論では、総論で学んだ知識を活用して疾病時に必要な栄養管理について学ぶ。また、疾病の進行に合わせた食事を飼い主に提案できるようになることを目的とする。</p>							
使用教材	動物看護コアテキスト6 動物看護の実践							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	栄養学各論①		疾患別による栄養特性 皮膚疾患について学ぶ①					
2	栄養学各論②		疾患別による栄養特性 いろいろな皮膚疾患の栄養管理について学ぶ①					
3	栄養学各論③		疾患別による栄養特性 皮膚疾患について学ぶ② いろいろな皮膚疾患の栄養管理について学ぶ②					
4	栄養学各論④		疾患別による栄養特性 肥満について学ぶ① 肥満と疾患の関連について理解する①					
5	栄養学各論⑤		疾患別による栄養特性 肥満について学ぶ② 肥満と疾患の関連について理解する②					
6	栄養学各論⑥		疾患別による栄養特性 消化管系疾患について学ぶ					
7	栄養学各論⑦		疾患別による栄養特性 下痢症状に対する栄養管理について学ぶ					
8	栄養学各論⑧		疾患別による栄養特性 便秘症状に対する栄養管理について学ぶ					
9	栄養学各論⑨		疾患別による栄養特性 心臓病について学ぶ①					
10	栄養学各論⑩		疾患別による栄養特性 心臓病について学ぶ② 心臓疾患に対する栄養管理について学ぶ					
11	栄養学各論⑪		疾患別による栄養特性 腎臓疾患について学ぶ① 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ①					
12	栄養学各論⑫		疾患別による栄養特性 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ②					
13	栄養学各論⑬		疾患別による栄養特性 腎臓疾患について学ぶ② 腎臓疾患に対する栄養管理について学ぶ③					
14	栄養学各論⑭		疾患別による栄養特性 肝臓疾患について学ぶ①					
15	栄養学各論⑮		疾患別による栄養特性 肝臓疾患について学ぶ② 肝臓疾患に対する栄養管理について学ぶ					

科目	動物臨床検査学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	立花 徹(10) 林 茂(10)		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習			
担当教員	廣田 典子(5) 片桐麻里奈(5)		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習			
担当教員	石 田 亜 椰		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	演習			
学習目標	1.班で学習することでコミュニケーション能力を養い、チーム医療に参加できるように意識づける。2.動物病院の受付業務をシミュレーションを通して学び、問診法や飼い主への対応を学習する。3.さまざまな検査や周術期管理を迅速かつ正確に行えるように学ぶ。4.臨床現場で責任をもって検査が行えるよう、個々の意識を高める。							
使用教材	動物看護コアテキスト6 動物看護の実践 ・ 配布資料							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ		マ		内			容
1	調剤法①		1.薬剤の種類、剤形などについて学習する					
2	調剤法②		2.調剤に際しての注意点などを学習する					
3	調剤法③		3.投与量の計算を復習し、確実に必要量が算出できるようになる					
4	調剤法④		4.調剤法実習 ①投与量を計算し、調剤を行う					
5	調剤法⑤		4.調剤法実習 ②分包器の構造、使用方法を確認する					
6	調剤法⑥		4.調剤法実習 ③効率よく分包できるよう練習し、習得する					
7	尿検査①		1.尿検査の目的を確認する					
8	尿検査②		2.尿検査実習 ①一般検査について確認する					
9	尿検査③		2.尿検査実習 ②試験紙による化学的検査法の手技を復習し、より効率的に実施できるよう学習する					
10	尿検査④		2.尿検査実習 ③細胞学的検査の手技を復習し、より効果的に実施できるよう学習する					
11	まとめ①		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ①保定法：採血時の保定法を確認する					
12	まとめ②		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ②検査：血液、糞便、尿検査方法を確認し、効率的に実施できるように学習する					
13	まとめ③		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ③注射法：それぞれの注射法に必要な器具の準備ができるか確認し、その手技も実践できるか確認する					
14	まとめ④		1.看護の実践的な作業を確認し、現場で適切に対応できるようにする ④調剤法：さまざまな剤形のものを適切に処理し、分包できるか確認する					
15	保定法		1.保定法を復習する ①小型犬の保定法を復習する②大型犬の保定法を学習し、その方法を習得する 2.体脂肪測定 ①体脂肪計の使用法を学び、測定を行う					

科目	動物医療コミュニケーション	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	20	授業回数	10	
担当教員	中川佳代子			実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	演習		
学習目標	動物看護師の動物病院での役割は幅広く多岐にわたる。動物病院での業務を背景にあらゆる状況に応じたコミュニケーション力を身につけ、クライアントエデュケーションを理解し、飼い主教育指導を学ぶ。またホスピタリー精神を養い飼い主・患者に豊かなQOLの提供、グリーフケアについても学習する。							
使用教材	動物医療コミュニケーション資料一式・ノート							
評価基準	試験・授業態度							
	テ	マ	内					容
1	クライアントエデュケーションとは①		クライアントエデュケーションの概論、目的、必要性を学ぶ。					
2	クライアントエデュケーションとは②		飼い主と信頼を築きコンプライアンス向上に向けての教育指導を理解し、飼い主と同じ視点に立ち動物に実施してほしいことをの指導方法を理解する。					
3	飼い主対応①		飼い主に伝える能力を養う。ロールプレイ形式で聞き手の役割カードを使い実習する。飼い主に伝える能力を養う。グループで話し合い発表形式で商品説明を実施する。					
4	飼い主対応②		求められる人材について学ぶ。グッドマン方式を理解する。					
5	飼い主対応③		動物の様子を確認しながら質問・主訴業務を学び、実習する。薬の説明業務を学ぶ。相手に合わせた薬の説明を学び実習する。					
6	飼い主対応④		精算業務を学ぶ。相手に合わせた生産方法を学び実習する。電話対応の基礎・応用を学び実習する。					
7	飼い主対応⑤		クレーム対応の基礎・応用を学び実習する。外部対応の基礎・応用を学び実習する。待合室管理も学ぶ。					
8	飼い主対応⑥		緊急時対応の基礎・応用を学び実習する。					
9	飼い主対応⑦		グリーフケアの基礎を学ぶ。グリーフケアの基礎をもとに飼い主対応を学び実習する。					
10	チーム獣医療		チーム獣医療として必要なコミュニケーション能力を養う。					

科目	ビジネス学	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	45	授業回数	23	
担当教員	中川佳代子			実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	演習		
学習目標	社会人として必要な常識・ビジネスマナー・コミュニケーションスキルを学ぶ。							
使用教材	ビジネス学資料一式・ノート							
評価基準	試験・授業態度							
	テ	マ	内					容
1	ビジネス実務		社会人としての自覚					
2	ビジネス実務		社会で役立つ人材になるには					
3	ビジネス実務		企業の中で働くとは					
4	ビジネス実務		仕事と目標、主体性と組織運営					
5	ビジネス実務		コミュニケーションを考える					
6	ビジネス実務		コミュニケーション力を身につける					
7	ビジネス実務		聞く力を身につける・目的に即して聞く					
8	ビジネス実務		傾聴する・質問する					
9	ビジネス実務		話しを組み立てる					
10	ビジネス実務		表現・伝達をする。					
11	ビジネス実務		情報共有の重要性					
12	ビジネス実務		チームコミュニケーション					
13	ビジネス実務		社会に出ている先輩たちの話を聞く					
14	ビジネス実務		前回の話をういてグループワークで話し合う					
15	ビジネス実務		社会に出ている先輩たちの話を聞く					
16	ビジネス実務		前回の話をういてグループワークで話し合う					
17	ビジネス実務		動物病院院長の話を聞く					
18	ビジネス実務		前回の話をういてグループワークで話し合う					
19	ビジネス実務		アポイントメントの取り方・訪問・挨拶					
20	ビジネス実務		来客対応					
21	ビジネス実務		お茶の出し方、入れ方、いただき方					
22	ビジネス実務		2年間の振り返り					
23	ビジネス実務		2年間の振り返り					

科目	動物形態機能学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	10	授業回数	5	
担当教員	廣田典子・石田亜椰			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	動物のからだの形態と機能を骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶび修得した知識の実践力を身につける。							
使用教材	犬と猫の身体のしくみ・絵で見る解剖学							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ		マ		内			容
1	顕微鏡の操作方法①		適切な顕微鏡の操作方法および取り扱いを身に付ける。顕微鏡の各部位と強検倍率、強検条件を理解する。正しい操作と基本的な管理ができる。					
2	顕微鏡の操作方法②		適切な顕微鏡の操作方法および取り扱いを身に付ける。顕微鏡の各部位と強検倍率、強検条件を理解する。正しい操作と基本的な管理ができる。					
3	健常な組織像を顕微鏡で観察①		特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、膵臓、腸など					
4	健常な組織像を顕微鏡で観察②		特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、膵臓、腸など					
5	健常な組織像を顕微鏡で観察③		特徴のある主要臓器の組織像を観察しスケッチする。 甲状腺、肺、肝臓、腎臓、膵臓、腸など					

科目	動物内科看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	20	授業回数	10	
担当教員	廣田典子			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技、またグルーミングの技術を得ることにより皮膚や被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深め、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
使用教材								
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	運動の管理と実践①		散歩、個体に適した運動を理解し安全かつ健全な歩かせ方、歩行異常の見極めなどを実践する。					
2	運動の管理と実践②		散歩、個体に適した運動を理解し安全かつ健全な歩かせ方、歩行異常の見極めなどを実践する。					
3	排泄の管理と実践①		衛生的な排泄、排泄による健康管理（異常の早期発見）において、便の状態の観察と確認。また実際の個体を使って実践する。					
4	排泄の管理と実践②		衛生的な排泄、排泄による健康管理（異常の早期発見）において、便の状態の観察と確認。また実際の個体を使って実践する。					
5	病気の早期発見のための管理と実践①		健常時と異常なしぐさ、容態の違いを知り、健康な状態の犬を使い実践する。					
6	病気の早期発見のための管理と実践②		健常時と異常なしぐさ、容態の違いを知り、健康な状態の犬を使い実践する。					
7	病気の早期発見のための管理と実践③		健常時と異常なしぐさ、容態の違いを知り、健康な状態の犬を使い実践する。					
8	病気の早期発見のための管理と実践④		健常時と異常なしぐさ、容態の違いを知り、健康な状態の犬を使い実践する。					
9	食事の管理と関わり①		人工的な給餌、症状に合った給餌を実践する。					
10	食事の管理と関わり②		人工的な給餌、症状に合った給餌を実践する。					

科目	動物臨床検査学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	30	授業回数	15	
担当教員	立花徹(40)片桐麻里奈(20)	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	実習			
担当教員	正城未央・石田亜椰	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	実習			
学習目標	それぞれの動物種の状態に応じた保定技術を身につけスムーズな診療・処置を行えるようにする。また、講義で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。動物の基礎情報を収集し診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに全身の身体検査を実施しバイタルサインの評価・記録・獣医師の報告が行えるようにする。							
使用教材								
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	皮膚検査①(目的・意義、機器・備品、病変の観察と記録、皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査、ウッド検査・真菌培養法)		皮膚検査の意義を理解し、適切な手技を身につける。皮膚検査に用いる機器、用具の名称と用途を学ぶ。皮膚病変の観察により、異常所見の記録をできるようにする。					
2	皮膚検査② (耳(外耳・中耳・内耳))		皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査の意義を理解し、手技をマスターする。ウッド検査・真菌培養法の意義を理解し、手技をマスターする。耳の解剖生理を理解し、さまざまな耳の疾患について学ぶ。					
3	微生物学的検査(細菌・真菌①) (概要、菌種、細菌・真菌培養、菌の取り扱い)		微生物学及び微生物学的検査の意義を理解し、適切な手技を学ぶ。細菌と真菌の種類と形状を学び、それぞれの特徴を理解する。					
4	微生物学的検査(細菌・真菌②) (標本作成(固定・染色)と鏡検、薬剤感受性試験と抗生物質)		細菌・真菌培養に必要な備品の準備及び手順について学ぶ。感染の定義を学び、感染源・感染経路の種類を知り、細菌・真菌の取り扱いを熟知する。					
5	微生物学的検査(細菌・真菌③) (標本作成(固定・染色)と鏡検、薬剤感受性試験と抗生物質)		基本的な感染性のある菌の固定法を学び、染色の色調の違いと判別法を知る。薬剤感受性試験の目的・手順を知り、効果的な抗生物質の種類・名称・効果について学ぶ。					
6	手術①(手術補助、器具・機材の準備、麻酔前評価、血管確保、麻酔とは(麻酔の種類など))		麻酔・手術の全体的な流れを学ぶ。周術期の管理について学ぶ。一般的な手術器具の名称と特徴を理解し、手術目的に合わせて準備および取り扱いができるようになる。					
7	手術②(麻酔導入・気管確保、麻酔の維持・管理、輸液管理(ライン管理・接続・輸液ポンプ設定)、麻酔モニターと血液循環、麻酔記録)		年齢・動物種・身体検査・血液検査・X線検査などを行い、麻酔前の総合評価を行い、麻酔の安全性の評価をできるようにする。外科手術を補助するための血管確保の準備・手順・手技などを学び、的確に処置者のサポートができるようになる。					
8	手術③(麻酔覚醒、術後管理(術創保護・疼痛管理・アメニティー))		麻酔の定義とその麻酔の種類・特徴を学び、麻酔下の生理的な状態や危険性を理解する。麻酔導入方法の理解をする。麻酔導入薬の種類と薬理効果を学ぶ。気道確保の準備と手順を覚える。適切な気管チューブの選択とスムーズな手技の補助をできるようにする。動物の麻酔リスクを考えた上で、安全性を確保するために、術中の動物の状態を把握し、適切な麻酔維持ができるようになる。					
9	手術④(麻酔覚醒、術後管理(術創保護・疼痛管理・アメニティー))		手術中の輸液の目的を理解し、輸液剤の選択と輸液量の設定を考え実施できるようにする。五感を使ったモニター手技と機器を使ったモニターを並行し、最善の麻酔状況を維持できるようにする。心拍出と血圧・循環血液量を把握し血液循環を理解する。					
10	手術⑤(麻酔覚醒、術後管理(術創保護・疼痛管理・アメニティー))		麻酔中の記録を取ることの重要性を理解し実践する。麻酔覚醒の生理的状態を理解し、より安全でスムーズな麻酔覚醒を迎えるために必要な処置ができるようになる。術後の創傷管理の実践と疼痛管理の重要性を学び、動物の術後の安静とアメニティーを考える。					
11	麻酔実習(歯石除去①) (術前管理(バイタル検診・血液検査)、麻酔前処置(血管確保・送管準備・麻酔準備・酸素化))		身体検査や血液検査などを中心に、必要な検査を実施し、麻酔前の評価を行い事前に必要な処置について学ぶ。麻酔処置に必要な処置や補助をするために必要な基礎知識を学ぶ。					
12	麻酔実習(歯石除去②) (麻酔導入(気管挿管・モニター設置・麻酔記録)、麻酔維持(モニター管理・麻酔調節・輸液・保温)、麻酔覚醒・術後管理(バイタルチェック・疼痛管理・輸液・保温))		麻酔導入方法の理解をする。麻酔導入薬の種類と薬理効果を学ぶ。気道確保の準備と手順を覚える。適切な気管チューブの選択とスムーズな手技の補助をできるようにする。五感や機器(HR・RR・SpO2・EtcO2・麻酔濃度・血圧など)によるモニター法を学び、動物の状態を把握しながら麻酔調整や輸液の対応ができるようになる。麻酔覚醒の内容を理解し、抜管のタイミングを学びその後の疼痛管理や輸液・保温などの術後管理を身につける。					

13	外科準備①（器具・機材の準備、ドレープの準備、手術器具・術野・手指消毒、術着とグローブの装着）	手術に必要な器具・機材の準備・管理を適切に準備できる。ドレープ・ガウンの意味を理解し、適切なものを準備できる。
14	外科準備② （術者・手術助手と周術期管理）	用途に合わせた滅菌方法の選択と管理を学ぶ。使用効率や無菌操作を考えたドレープやガウンのたたみ方ができる。汚染源を限りなく少なくするために、帽子・マスクを装着し、無菌の術着とグローブの装着法を身に着ける。
15	外科準備③ （術者・手術助手と周術期管理）	手術の流れを知り、その周術期の看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。

科目	動物外科看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	90	授業回数	45	
担当教員	立花 徹(30) 林 茂(30)		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	実習		
担当教員	片桐 麻里奈(30)		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	実習		
担当教員	正城 未央・石田 亜椰		実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		授業形態	実習		
学習目標	手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得し、実践力を身に付ける。							
使用教材								
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ		マ		内			容
1	外科診療時の補助に必要な技術の確認①		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護における動物看護師の役割を学ぶ。					
2	外科診療時の補助に必要な技術の確認②		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護における動物看護師の役割を学ぶ。					
3	外科診療時の補助に必要な技術の確認③		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護における動物看護師の役割を学ぶ。					
4	外科診療時の補助に必要な技術の確認④		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護における動物看護師の役割を学ぶ。					
5	外科診療時の補助に必要な技術の確認⑤		手術はどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期看護を理解し、動物外科看護における動物看護師の役割を学ぶ。					
6	無菌操作の重要性の確認①		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。					
7	無菌操作の重要性の確認②		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。					
8	無菌操作の重要性の確認③		手術時、手指を清潔に保つ必要があることを学び実際に手洗い方法を実践する。また、無菌的なマスク・ガウン・グローブの装着を行い無菌操作の必要性を確認する。					
9	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る①		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。					
10	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る②		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。					
11	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る③		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。					
12	手術前の動物に必要な管理と関わりを知る④		犬、猫の避妊手術を想定し衛生的に手術を行うための動物の管理と関わりを学ぶ。実際の動物を使用し実践する。					
13	手術室の環境管理①		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。					
14	手術室の環境管理②		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。					
15	手術室の環境管理③		手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ管理方法などを学ぶ。機器の正常な稼働を確認し、酸素ボンベ、麻酔器、その他の配置を考え実際に使用するよう設置する。					

16	滅菌と消毒の実践①	滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。
17	滅菌と消毒の実践②	滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。
18	滅菌と消毒の実践③	滅菌、消毒の概念を理解したうえで用途に合わせた滅菌、消毒方法を選択し適切に使用ができるよう実践する。また、滅菌した物の安全保管期間を把握し管理ができるよう実践する。
19	手術施設、設備の準備と管理①	機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。
20	手術施設、設備の準備と管理②	機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。
21	手術施設、設備の準備と管理③	機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。
22	手術施設、設備の準備と管理④	機材の管理方法を確認し消耗品の管理と保存管理の現状を確認し実践する。
23	術者に必要な準備①	手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。
24	術者に必要な準備②	手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。
25	術者に必要な準備③	手洗いの技術、キャップ、マスク、ガウンの着脱の正しい手順と介助、グローブの装着、無菌の意味と触れてはいけない範囲を再認識して実践する。
26	手術チームの準備①	無菌、滅菌、消毒の知識の実践
27	手術チームの準備②	無菌、滅菌、消毒の知識の実践
28	手術器具の準備と基礎知識①	器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。
29	手術器具の準備と基礎知識②	器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。
30	手術器具の準備と基礎知識③	器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。
31	手術器具の準備と基礎知識④	器具の名称と役割を知る、適材適所の用途、落ち度のない準備のためのチェック表活用方法、縫合材料の確認、消耗品の確認を実践する。
32	危険物管理、医療廃棄物の実際①	動物看護師が理解を深めておくべき危険物管理・医療廃棄物について学ぶ
33	危険物管理、医療廃棄物の実際②	動物看護師が理解を深めておくべき危険物管理・医療廃棄物について学ぶ
34	術前、術中の動物管理と看護①	衛生的に行える手術を想定し動物の毛刈りを実施。消毒剤を使用し術野の消毒を実施する。
35	術前、術中の動物管理と看護②	衛生的に行える手術を想定し術野の消毒を実施。内部から外部の消毒方法を理解した上で実施する。
36	術前、術中の動物管理と看護③	動物の切開部分を考慮しドレープを配置。適切なドレープの持ち方、かけ方を身に付ける。

37	術中の補助①	モニターによる管理と数値の報告。輸液管理、獣医師指示のもと麻酔濃度管理、器具出し、獣医師指示による助手業務を理解する。
38	術中の補助②	モニターによる管理と数値の報告。輸液管理、獣医師指示のもと麻酔濃度管理、器具出し、獣医師指示による助手業務を理解する。
39	術中麻酔に関する基礎①	麻酔の定義を復習し麻酔上体を理解。局所麻酔、全身麻酔の定義を理解する。
40	術中麻酔に関する基礎②	急速導入法と緩徐導入法を理解する。導入薬の種類、薬理効果を理解し、実施する。
41	術中麻酔に関する基礎③	一般的な麻酔器の構造を理解し手術中の麻酔管理をする。
42	術後の管理①	創傷治療を理解し速やかに行えるよう援助する方法を学ぶ。
43	術後の管理②	術部、創傷部の観察ポイントや管理における消毒法の理解を学び実施する。痛みの程度を各種ペインスケールを利用し評価する。
44	術後の管理③	覚醒にむけての準備、バイタルチェック、術創の保護、看護動物への絶食・絶水の管理。飼い主への術後注意事項の説明なども合わせて学び実施する。
45	衛生管理	手術室の衛生管理、術中使用したものの衛生管理、モニターの管理等を実際に行って復習する。

科目	動物臨床看護学実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	40	授業回数	20	
担当教員	今 木 康 彦			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	修得した知識の実践力を身に付ける。 動物看護過程や疾患別看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
使用教材	ファームプレス 第6巻							
評価基準	試験・授業態度・提出物							
	テ	マ	内					容
1	動物看護過程①		動物看護過程の展開・動物病院実習時に見学した事例や想定した事例で動物看護過程を展開する。					
2	動物看護過程②		動物看護過程の展開・動物病院実習時に見学した事例や想定した事例で動物看護過程を展開する。					
3	動物看護過程③		動物の状況の変化に応じた看護上の問題やニーズをあげ、適切な対応を考えテーマに沿った内容を実施する。					
4	動物看護過程④		動物看護計画を立て、評価,修正を実施する。					
5	動物看護過程⑤		動物看護計画を立て、評価,修正を実施する。					
6	動物看護記録を作成する①		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成する。					
7	動物看護記録を作成する②		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成する。					
8	動物看護記録を作成する③		実際の飼育管理や飼養管理の記録と異なることを認識し実際の場での記録の見学や事例による動物看護過程の展開の記録を作成し、実際に使用する。					
9	症状別の動物看護①		痛みの表し方・ペインスケールを活用する。					
10	症状別の動物看護②		痛みのある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
11	症状別の動物看護①		痒みのある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
12	症状別の動物看護②		痒みのある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
13	症状別の動物看護③		嘔吐のある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
14	症状別の動物看護④		排便異常のある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
15	症状別の動物看護⑤		排便異常のある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
16	症状別の動物看護⑥		多飲多尿のある動物の看護法を考え快適な生活を送れるよう実習する。					
17	症状別の動物看護⑦		食欲不振のある動物の看護法を考え科的な生活を送れるよう実習する。					
18	症状別の動物看護⑧		循環機能障害をもつ動物の看護法を考え科的な生活を送れるよう実習する。					
19	症状別の動物看護⑨		呼吸機能障害をもつ動物の看護法を考え科的な生活を送れるよう実習する。					
20	症状別の動物看護⑩		栄養摂取・代謝障害をもつ動物の看護法を考え科的な生活を送れるよう実習する。					

科目	動物看護総合実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	70	授業回数	35	
担当教員	片桐麻里奈(2年)			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	<p>修得した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされるのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造、機能を理解し動物看護が行われている場の環境を理解することで獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識及び倫理観を修得する。また、チーム獣医療の現場から診療の流れ専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を体験する。</p>							
使用教材								
評価基準	評価表・ポートフォリオ							
	テ		マ		内			容
1	補助型実習①		補助型実習の振り返りを行う。					
2	実務型実習①		実務型実習前のオリエンテーション補助型実習を終え実務型体験において必要な知識、心構えを理解する。					
3	実務型実習②		総合的な動物看護の実務能力を修得するための指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。					
4	実務型実習③		実務型実習の振り返りを行う。					

科目	美容学概論	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	16	授業回数	8	
担当教員	鎌田絵里			実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	実習		
学習目標	トリミングをする上で重要な犬の扱い方やグルーミングの方法、犬種によるカットの違いを学ぶことで、各犬種にあった基本的なトリミング方法や形、ハサミの入れ方などを学習し理解することが目標							
使用教材	グルーミングマニュアル・配布資料							
評価基準	試験・授業態度							
	テ	マ	内					容
1	正しい犬の扱い方について		正しい犬の抱き方やトリミングに必要な立たせ方、危険な犬の扱い方などを学習する					
2	グルーミングの仕方①		ブラッシングの仕方やコームの入れ方、耳掃除の仕方、シャンプー・ブローの仕方など、解説を聞き、犬を用いて実際にグルーミング作業を行っている所を見ながら、やり方を学ぶ					
3	シー・ズー		実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する					
4	シュнауザー		シュнауザーの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める					
5	プードル (ケネル&ラムクリップ)		プードルの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める					
6	ビション・フリーゼ		実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する					
7	アメリカン・コッカー・スパニエル		アメリカン・コッカー・スパニエルの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める					
8	プードル (ケネル&ラムクリップ)		プードルの犬種別講義をベースに実際にカットしている所を見ながら更に理解を深める					

科目	動物看護飼育美容実習	学科/学年	動物看護科 2年	時間数	200	授業回数	100
担当教員	鎌田 絵里			実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	授業形態	実技	
担当教員	石田 亜 椰			実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	授業形態	実技	
学習目標	1.バイタルサインを実施しながら健康な動物を理解する。 2.負担のないトリミングを実施する。 3.実習を通して様々な犬種のカットを時間内にでき、飼い主の要望に応えられる高い技術力を身につける。 4.実習を通して様々な保定術を身に付ける。						
使用教材	実習犬・グルーミングマニュアル・道具一式						
評価基準	試験・授業態度						
	テ			マ			
	内			容			
1	グルーミング実習① (シザーリング、ブラッシング、コーミング、シャンピング)			バイタルサインを確認しながら負担のないトリミングを実施する。一年次で修得したグルーミングの基礎とシザーが正しく持てるかを再確認する。			
2	グルーミング実習② (クリッピング、カット)			バイタルサインを確認しながら負担のないトリミングを実施する。時間短縮を心掛け、毛質の違いにあったシザーワークをし、全ての作業を安全に進める。			
3	グルーミング実習③ (カット)			バイタルサインを意識しながら負担のないトリミングを実施。犬種別のカットを理解し、仕上げの美しさ、可愛らしさを追求したトリミングができる。			
4	グルーミング実習④ (カット)			バイタルサインを意識しながら負担の少ないトリミングを実施。犬種別のカットの理解を深め、飼い主のオーダーを意識し、細部までこだわりをもちカットする。			
5	グルーミング実習⑤ (カット応用)			バイタルサインを意識し、保定においても動物の負担がないトリミングを実施。犬種はもちろん、その個体にあったカットがバランスよく切れ、時間内に一人で完成させることができる。			
6	グルーミング実習⑥ (カット応用)			バイタルサインを意識し、保定においても動物の負担がないトリミングを実施。プードルのケネル&ラムクリップを再確認し、完成度を上げる。			